



《発行所》  
若葉台  
第一住宅管理組合  
坂戸市千代田4丁目7番30号  
電話 049-283-7950  
メール:kanri@wakaba1.com  
http://www.wakaba1.com/



# 耐震精密診断結果報告住民説明会を開催

7月20日(月)、団地集会所において建物の耐震精密診断の結果報告住民説明会が開催されました。

133名の組合員の参加があり、住民の関心の高さが伺われました。

説明者は建築再生総合設計協同組合理事長の宮城秋治氏で、調査期間は約1年を要しました。

当団地は旧耐震基準の建物であり、今後想定される震度6以上の地震に耐え得る新耐震基準の性能を有しているかを見極めることを目的として建物の耐震精密診断を行いました。



耐震性能の判定指標IS値(建物の地震に対する強さを表す構造耐震指標)が0.6以上、CTUSD値(建物の形状などを考慮して表す耐震性能指標)が0.3以上であれば新耐震基準を満たしています。

結果、当団地の住居棟及び集会所、受水槽、ポンプ室は全ての建物が新耐震基準を満たしていることが証明され、耐震診断結果は評定書として受領されました。

減震対策を忘れずに！  
以上のよう  
に、建物倒壊  
の恐れはあり  
ませんが地震  
が発生した時  
に、できるだけ  
け災害が減ら  
せるように各  
ご家庭で家具  
などの転倒防  
止措置を行っ  
て下さい。

## 耐震診断結果の概要

(X方向→建物の長辺方向 Y方向→建物の短辺方向)

耐震診断対象建物	Is値		CTUSD値		耐震補強の必要性
	X方向	Y方向	X方向	Y方向	
Aブロック6号棟	0.85	0.99	/	/	不必要
Bブロック3号棟	0.82	1.03	/	/	不必要
Cブロック9号棟	0.63	0.87	0.64	0.88	不必要
Dブロック17号棟	0.61	0.60	0.77	0.30	不必要
Eブロック28号棟	0.63	0.71	0.50	0.56	不必要
Fブロック31号棟	1.67	3.48	1.18	3.52	不必要
集会所 30号棟	2.10	4.47	2.12	4.52	不必要
ポンプ室	2.29	3.59	2.31	3.63	不必要
受水槽室	2.59	1.38	/	/	不必要

## おめでとうございます 平成27年度「さつき賞」受賞!

「さつき賞」とは坂戸市内で住み良い地域づくり活動を行っている個人または団体に対して与えられる賞です。今年度は26号棟にお住まいの若宮俊一郎さんが受賞されました。若宮さんは平成5年に若葉台第一住宅管理組合自治会の役員に就任し、平成12年に退任するまで自治会



の中心的な役割を担い、退任後も現在に至るまで自治会のメンバーとして活躍されています。また、平成18年に立ち上げた南小学校の「子供見守り隊」に参加し、平成21年からは隊長として子供たちの安全な下校に貢献されています。なお、「若葉子ども見守り隊」は平成24年にこの賞を受賞しています。また、結

成から20年にわたる坂戸市地域連絡協議会の活動も評価され、周辺のコミュニティや、治安に対しての功績は大きく、地域の模範になっています。この度の受賞をお祝いすると共に、益々の活躍を期待しています。(広報部)

## 文字摺草

あの暑かった猛暑の夏が過ぎ、涼しい日が続いた頃、早すぎる夏の終わりが気になった。9月に入ったそんなある日集中豪雨が襲い栃木・茨城・宮城に大きな災害をもたらした。台風が去った後の低気圧により線状降水帯の現象が起こり、2か月分の雨が一日で集中的に降った結果だ。中の一ツ栃木を源流とする鬼怒川の氾濫は、茨城県常総市の堤防を決壊し広い範囲で街を呑み込んだ。穏やかだった日常が一瞬にして奪われていった。多くの人がこんなことは初めてと言っていた。まさに自然は時に人間の想像を超えて荒れ狂う。改めて水の恐怖をまざまざと見せつけられ、自然はそんなに甘くないと言われている。日本は地震・水害大国と言われる。それでも長い歴史を見れば何時だったって自然災害と格闘し乗り越えて生きて来た。今災害は進化複雑化しているように思える。体験・経験に想像力を加え災害と向き合うことが求められる時代に入っていることを教えられた。(公)

# 地区防災訓練を実施

## 防災訓練実施にあたり

自主防災会会長 佐藤 浩

9月6日坂戸市の防災訓練に伴い我々の団地でも実地訓練を行いました。今回は役員、棟長、防災委員、民生委員の皆様にご協力を頂き、初めての実地訓練を行いました。

ました。各地で自然災害が最近目立って起きていく事に不安を感じ、実行いたしました。

この様な問題について当団地においても住民皆様に考えていただきたい。自主防災組織は「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚連帯感に基づき、自主的に結成する組織で、災害による被害を予防し、軽減するための組織です。

災害時においては、地域や近所の皆様が団結して事にあたらないければその結果が最大限に生かされないのではないのでしょうか。

こんな思いで実地訓練をおこないました。今後とも日ごろの準備をしておくことが一番大切に思っています。

今回の訓練にご協力に感謝申し上げます。



坂戸市防災訓練会場にて

## 「地区防災訓練」を終えて

総務部長 横田 光朗

9月6日(日)に行われた若葉台第一住宅地区防災訓練(以下防災訓練)について考えてみたいと思います。

防災無線放送が流れてから、防災委員、棟長は自分と家族の安全確保した後、次の事をします。

- ① 人的被害(居住者及び要支援者)を把握する。
- ② 火災・建物・電気・電話・ガス等の状況を確認する。
- ③ 集合室5に10分で集合する。

実際には10分では難しいと思います。状況をどこまで把握し確認出来るかも難しい問題です。



ケガ人看護の演習

また防災委員への協力者がいない場合、一人ですることになります。

次に集合室5で「被害調査票」(この調査票は坂戸市の書式であり、この書式で地区本部である若葉台第一住宅自主防災会に報告することになっています。)

に防災委員が記入し、情報連絡隊に提出します。その後、各防災委員(棟長)は各隊に別れて各隊の任務について話し合いました。

救助救援隊は、けが人3名の救出に発しました。(今回の防災訓練の被害想定は、けが人3名と全棟断水としました。)

その際、けが人から「救助隊が本物かどうか目印があると安心して救助が受けられる。」との意見がありました。

その後、全員がポンプ室に移動して給水装置の操作訓練を実施しました。

その際、なるべく多くの人が操作できるように訓練してほしいとの意見がありました。

訓練終了後、全員が集合室5に集まり意見を交換して防災訓練は終了しました。

実際に地震が起きた事を考えると、いろいろな状況が考えられますが、今後も訓練を重ね、より安全な若葉台団地にしていきたいと思います。ご協力をお願いします。

9月6日に坂戸市主催の防災訓練が行われました。埼玉県北部を震源とし震度6強の地震が発生したという想定の下、坂戸市立南小学校を避難拠点とする訓練です。南小学校のグラウンドにて、地震発生時に考えられるケースを想定し、救護や救出体験、消火活動などを体験させて頂きました。

## 坂戸市防災訓練に参加して

高木 厚志



また、周辺の方との協力も必要だと思います。災害時はできるだけ多くの方で救助や救出にあたることで一人でも多くの方を救うことができます。

難しい事だと思いますが、団地の行事や定期的に行っている草むしりなど、近隣の住民とコミュニケーションを図り、いざという時は協力していける体制を整えておくことも大事だと思います。今回防災訓練に参加させて頂き、地震や大雨、土砂崩れなど自然災害が増えている中、改めて災害に対し考えさせられました。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

9月6日に坂戸市主催の防災訓練が行われました。埼玉県北部を震源とし震度6強の地震が発生したという想定の下、坂戸市立南小学校を避難拠点とする訓練です。南小学校のグラウンドにて、地震発生時に考えられるケースを想定し、救護や救出体験、消火活動などを体験させて頂きました。今回、防災訓練に参加させて頂き、自分の身は自分で守る事、災害に備え日頃から備えておく事の大事さを強く感じさせられました。常日頃から災害時に何が起ころのか、何が必要なかを考え生活することが必要です。

### 9月6日/若葉台第一住宅防災訓練タイムスケジュール

- 8:20 ・市の防災無線放送が流れる
  - ・防災委員、棟長は集会室5に向かう
    - ① 人的被害の確認
    - ② 建物・電気・水道・ガス状況確認(各階確認 10分間)
- 8:40 ・防災委員、棟長は集会室5に集合
  - ・被害状況報告書を記入、提出
  - ・報告内容設定
    - ① けが人発生(3・23・28号棟)
    - ② 火災なし・全棟断水・その他の被害なし
- 9:00 ・各部隊構成発表 各部隊に分かれる
  - 情報連絡隊 ○警備隊 ○避難隊
  - 救助援護隊 ○物資隊 ○ライフライン隊
  - ・部隊行動演習(けが人救護)
    - ① 救助救援隊員2名が、3・23・28号棟に車椅子とリヤカーで向かい、けが人を集会室5に連れてくる。
    - ② 各部隊の役割と行動について説明
    - ③ 全体被害状況報告書を作成(情報連絡隊)
- 9:30 ・給水場に移動(全員)
  - ・給水装置の確認説明を受ける
- 10:00 ・集会室5に集合
  - ・今後の取り組みについて
  - ・意見交換、質疑応答
- 10:30 終了
- 10:45 ・役員は南小グラウンドへ移動、坂戸市民総合防災訓練に合流



でも妹が「お姉ちゃん」

夏休みに入ってから、ラジオ体操をやったので、今年「やらなくてもいいかな。」って思っていました。

## 頑張ったラジオ体操

鈴木

那々未(六年生)

去年妹と一緒に前に出て皆の前でラジオ体操をするリーダーをやったので、今年「やらなくてもいいかな。」って思っていました。皆の前に出て、ラジオ体操をする事に、少しはさかしさもありませんが、妹が



ラジオ体操を一生懸命頑張っている姿を見て、私も、頑張らないといけないなと思えました。今年のラジオ体操も妹の一言のおかげで、妹と一緒に一日も休まずラジオ体操リーダーができました。



救助隊へ説明



けが人を救助



給水場で説明

## My Room

を開かれました。昭和12年、石川県能登のお生まれです。娘さんのご卒業を機にご自分も定時制高校に入学されその後武蔵野美術短期大学に進まれ、卒業されました。

今回のご紹介は、19号棟にお住まいの加藤悦美さんです。今年7月に川越市のギャラリーで油彩画の個展



地道な努力が実り、平成26年度「近美関東美術展奨励賞」を今年2月に受賞されました(写真)。

歳をとっても夢を持ち続けることのすばらしさを、教えられる感動しました。(取材 羽磨)

## 2015年度 防災委員名簿

号棟	号室	氏名	号棟	号室	氏名
1	103	松本 全	16	102	長谷川俊太郎
2	103	北見隆一	17	503	碓井 久
3	403	高木厚志	18	603	山田哲嗣
4	302	原野智恵	19	101	桑 孝志
5	303	平塚一樹	20	303	松本久代
6	406	横山郭美	21	204	長谷部俊
7	404	三宅智子	22	502	青田一宏
8	502	小林良瓦	23	405	三吉友久枝
9	304	小澤鉄紀	24	401	高田 拓
10	101	小美野進	25	402	縄田屋真美
11	202	吉田京子	26	1103	西田雅己
12	201	三瓶 博	27	201	亀山清子
13	304	鈴木文江	28	1104	芦田武男
14	504	今井重夫	29	703	上田定夫
15	201	馬場美智子	33	107	内田正春



夏祭り (キッズダンス)



ラジオ体操



# 八千歳の夏祭り

夏祭り実行委員長 今坂祐輔

雨天決行！夏祭りの火蓋が切つて落とされた。子ども等が弾かれたように飛び込んでくる。

降り止まない雨で出足は鈍かった。それでも雨が小止みになると人出の勢いも盛り返してきた。

今日この日のために打ち合わせから始まり準備設営と果てもなく続く。永年祭りを手掛けてきたその道のエキスパートが手際よく作業を進めていく、今年は例年のように怒号が飛び交うことも少なく、穏やかな準備作業が続いた。お互い歳もと

り、角も取れて丸くなってきたのか？

今年役務柄、近隣の夏祭りを何か所か見て回った、皆が言う通り手作りの祭りとしてどこにもひけを取らない自慢の祭りであるのは疑いない事実だった。

ただ現状を見渡せば、自身も含め高齢化は否めようもなく、協力方の年齢を祭りの初めから終わりまで合算すれば八千歳にもなろうかというところ、この先何年も同じ祭りを続けて行けるのかと心配にもなる。このうえ



子供映画会



徒渉池



夏祭り (夜景)

は一刻も早い若い人の台頭が望まれる由縁でもある。老兵は去るのみ、若い人達への樽渡しも焦眉の急と思われる。

お祭りは慈善事業でもなければ、営利を目的とする事業でもない。決められた予算のなかで最大の効果が求められる。永年の経験とカンの蓄積こそが遺憾なく発揮される時で、執行役の方々に本当に頭が下がる思いであった。

お祭りは住民による、住民のための楽しい行事である。そのために迷惑行為は厳に慎まなければならない。大人でも子どもといえどもそのルールは守っていかなければならない。当団地を巣立った子ども

もたちが親となつて里帰り、その子供たちには、小さな両手に溢れこぼれ落ちるほどの思い出のお土産を持たせてあげたい。そんな子供に鷹揚な夏祭りにしたいたいものだとも思った。

自分も来年の祭りには一般の人に混じり、徒渉池の畔で焼き鳥やトモロコシを肴に、キュンと冷えた生ビールのお代わりを試みたいものだとしみじみ思った。

夏祭りの成功も一重に多くの方々の協力に負うところ大です。紙面を借りて夏祭りを大成功に導いてくれた関係者多数の方々に心より御礼申し上げます。有難うございました。

## 編集後記

当団地では今回地区防災訓練を試みましたが、同日に行われた南小での坂戸市総合防災訓練で見た光景（ヘリコプターによる救助）が、くしくも現実となつてテレビで中継されていました。

災害は予期せぬ形で、住民を襲います。どんなに安全といわれても「絶対」はありえない。

私たちはこの何年かで、自分の身は自分で守る、そしてそうなた時の備えの大切さを痛切に感じさせられたこの頃です。

\*訂正のお知らせ\*  
広報わかば第158号で「集会所の有効活用を」

の中でグラフと表の表題を「管理事務所施設」利用としましたが正しくは「集会所」です。お詫びして訂正いたします。

(羽磨)

